

特集

不整脈診療 —ずっと疑問・まだ疑問

「この領域は魅力がある」けれど、「あの領域は面白くない」というのはよくあることです。
ひとつの決め手は「治療法があるか」ということ。

昔の循環器診療は、「虚血性心疾患」だとか「発作性上室頻拍」と診断はできても、負担の少ない治療も手間のかからない治療もなかなか困難でした。

ところが、近年の知識と技術の集積により、侵襲の少ない治療や根治も可能となりました。

こうして、今どきの循環器診療は他の多くのジャンルと同じように「魅力がある」ものになっています。

さて、今回の企画は〈不整脈の現在〉を学ぶことを目的としています。

かなり欲張って、

- 基本のコンセプトはどうして得られたか
- 不整脈のメカニズム
- 治療技術はどうなっているか

…の3つとも扱っています。

「専門でないが、不整脈に出会うかた」にも、「不整脈が専門のかた」にも興味を持って貰えるテーマを考えました。

大規模臨床研究の知識があっても、それぞれの試験の重みをどう感じるか、人によってばらつきがあるでしょう。

執筆の先生がたに〈自分の視点〉を紹介していただきました。

- ブルガダ型心電図に出会ったら具体的にどう動くか
- 症状のない心房粗動をどうするか
- どの発作性心房細動が慢性化するか

こうしたテーマは編者自身も確信がもてず、誰かにたずねてみたいと思っていました。

- 心室期外収縮のフォーカスを推測する
- 心室頻拍の電気生理
- 抗不整脈薬と自律神経の考え方

どれも診療に必要なこと。

頭を整理するためにエキスパートにまとめて貰いました。

楽しみながら、〈不整脈診療のヒント〉を見つけていただければと期待しています。

帝京大学医学部附属溝口病院第四内科 村川裕二